



右/ PCグラウトの流動性をチェックするフロー試験。天候の変化への対応や養生の段取りなど、多くの経験を積んでいる。
左/現場に掲げている「美守隊」の幟。オリエンタル白石(株)には、現場の安全パトロールを女性社員が行う「美守隊」という組織が各支店に存在する。松井も大阪支店の美守隊の1人だ。女性目線でパトロールをすることで、男性とは違ったところを是正でき、建設業のイメージアップにも繋がる取組みだ。

私の
業務
komachi's
point

輝
け!

けんせつ小町

現場監督

松井彩香

オリエンタル白石(株)
朝倉第1高架橋上部第3工事事務所



「けんせつ小町」は、日建連が定めた建設業で活躍する女性の愛称です。

建設会社で現場監督を務める「けんせつ小町」は、都市部の建築現場で働く人が多い。土木現場は、地方が多く工期も長期化するため、個人の負担を考慮して、そのような傾向があるのかも知れない。今回は、地方の土木現場で活躍する女性現場監督にスポットをあてる。

地元高専への進学がきっかけ

松井彩香は、一九九三（平成五）年、石川県生まれ。中学校の進路相談をきっかけに、叔父の母校でもある石川工業高等専門学校に進み、環境都市工学科で学んだ。

「高専を選んだのは、叔父がOBだったのと、受験日が重なっていなかったの、受けてみよう。学科も、その分野に特別興味があったというわけでもなくて、建築か環境かで悩んでいたら、中学の先生が環境の方を勧めてくれたんです。単純に言葉の響きもどこかカッコよかったので（笑）」

「高専に学生寮があったんですね。そのころ、別に親と不仲だったわけじゃないですけど、家を出たっていう衝動があって、寮に入らせてくれるっていうのでとても気に入ったという面もあります」

髪型やピアスにもうるさくない、自由な校風が肌に合い、学生生活を謳歌した。その中で、現場見学会などを通じて徐々に土木への興味を募らせていった。

「修学旅行で、私が今いる四国に来たこともあり。早明浦ダムを見学したり、明石海峡大橋のアンカレイジの中に入らせてもらったり。ある時学校の近くの内灘っていうところで現場見学をさせてもらったんです。他のところ

は見学コースを通って維持管理の方法を聞いて、行って歩いて終わりって感じだったんですけど、ここはまさに橋の施工の真っ最中の現場でした」

そこで施工していたのは「のと里山海道」という自動車専用道路で、金沢市と穴水町を結ぶ海沿いの主要道路の拡幅工事だった。

「途中は片側二車線なんですけど、最初と最後の区間が一車線しかなくて、この内灘のあたりも二車線にするっていう工事。家族で金沢へ遊びに行く時とか、私が学校から帰るのに親が迎えに来てくれる時とか、まさに日頃から利用してる道だったんですね。そういう身近なところが便利になる工事を見学したのもきっかけのひとつですね」

ゼネコンへの入社

自動車道工事の現場見学に行ったのが、高専五年生の四月。その後、民間企業への就職を決心し就職活動を開始したが、先生から「四月に現場見学に行った会社が募集しているよ」と教わった。

「見学会としてはとても印象に残ってたんですけど、正直どこの会社だったかな、と（笑）。で、その時の資料を見たら『オリエンタル白石』。そういえばヘルメットにそう書いてあったなって思い出して」





グラウト注入量を管理するマシンをオペレートする。真剣な眼差しの方と一緒に働く職人さんのアイドルでもある松井。「明るく、正直で、現場のアイドルですが、必要な時はちゃんと指示を出し、また、ごまかさないタイプなので、職人の間でも信用があります。経験を積んで、いい所長さんになるのを期待しています」(職長)

「身近な現場で工事を見学して その便利さを実感、 土木の世界に入った」

オリエンタル白石(株)にはその先生の知り合いがおり、その伝手で会社説明会に参加するなどして、入社を決めた。

近い親戚にも建設業で働く人はおらず、両親からは少なからず心配されたという。

「でも、会社が決まった時に私が『現場勤務になるので』もう石川に帰れないかもしれないね」と言ったら、『高専に入った時点でわかって



上/所長・主任に囲まれて。「一見“ほんわか系”ですが、芯の強さがあります。朝礼や昼礼など、時折自分の考えをしっかりと主張する面も。今後いろいろなことを学んで、ぜひ主任、所長へとステップアップして欲しいですね」(佐藤所長)
下/「今治小松自動車道」は西瀬戸自動車道と松山自動車道をつなぐ自動車専用道路。その中の70m分の高架橋を担当している。

いたことだからいいのよ」と言ってくれて、ありがたかったですね」

四国・今治の現場で自動車道をつくる

入社後は大阪支店の配属となり、現在は愛媛県の「今治小松自動車道」の現場で、測量・墨出し・記録写真撮影・工事記録の作成などの業務を行っている。

「まだ二年目の途中で三現場目なので、ずっと同じ現場にいる同期入社の方女性技術者からはうらやましがられています。もともと日本全国いろいろな土地や人に対してあこがれがあるので、この仕事で四七都道府県制覇できたらいい

なって」

「この現場には昨年七月から勤務していますけど、初めてきた時に女子更衣室が所長室かと思ってくらいすごく広くてびっくりしました(笑)。でも仕事の上では女だからって特別扱いなく、普通に接してもらっています」

黒木信秀工事部長もそんな松井にこうエールを送る。

「現場に出て二年目ですが、前向きで、一歩一歩進歩していると見えています。女性であることに逃げ場を求めないところが、彼女のよさであり、強みですね。今後は、他の工種の経験もさせたいと考えています」

土木のコンクリートの打設量は建築と比べて桁違いに多いこともしばしば。しかも生ものなので、大量に余らせるわけにもいかず、その量の見極めは難しい。

「連結部の打設の時はかなり余らせてしまっただけで反省しきりだったので、床版コンクリートでは今度こそという準備をして臨んだら、ポンプ車に戻した時点で〇・五立方分。所長や主任から『合格』って言ってもらえた時は、うれしかったです」

「コンクリート打設がうまくいって、コールドジョイント(打ち継ぎが失敗してコンクリート同士が一体化できていないこと)も気泡もなくキレイに仕上がった時は、躯体をいつまでもなでてあげたくありませんね」

komachi MEMO

「北陸と違って今治ってずっと天気がよくて、女性としては日焼けが気になる(笑)。最初ワレンンにしてたんですけど、美容師さんからおでこ広くて顔が黒いからやめた方がいいって言われて前髪つくりました。あとヘルメットの後頭部に布をつけたりして工夫しています」



profile

まつい・さやか◎1993(平成5)年、石川県生まれ。石川工業高等専門学校の環境都市工学科を卒業後、2014(平成26)年オリエンタル白石㈱入社。大阪支店工事部工事チームに配属。同年7月から静火大橋、同年9月から寝屋川北部地下河川謨良立坑頂版築造工事に従事。2015(平成27)年7月より現職。

土木分野のけんせつ小町として

「当社にも現場に赴任した女性が過去に何人かいたようですが、みなさん内勤になったり退社されたりで、先輩の中に現場で働く人がいないので、施工管理や品質管理、原価管理をもっともっと勉強して、現場所長を目指してがんばろうと思っています」

「土木で現場監督をやっているのが珍しいこととあってか、大阪で開催しているリクルートや建設業を知ってもらう質問会に呼ばれることがあるんですけど、電車で片道三時間半から四時間。ほとんど一日仕事になってしまっているので、きつい部分もあります。ただ、自分が学生のころの説明会には男性しかいなかったの、戻込みする人もいたと思うんです。やっぱり女性がいる方がいろいろと質問もしやすいと思うので、そこはがんばって参加したいと思っています」

土木の女性現場監督という「レア」な立場で業界発展に貢献する傍ら、地方での生活も楽しんでる。

「宿舍のすぐ近くにいい感じの焼き鳥屋さんを見つけて。一人で行って、お店の人と仲良くなってずっとしゃべってたりしてます(笑)。地元の職人さんにも、その地域のおいしいものとか名物を聞いたりして。食の話からコミュニケーションが広がります。次はどの県に行くのが楽しみです」